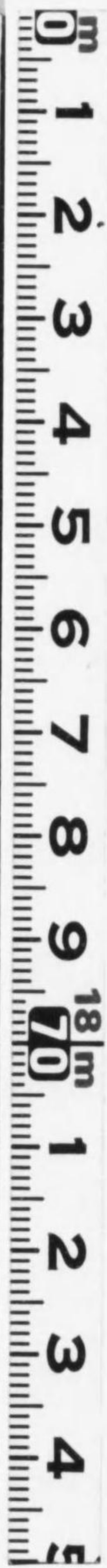


お墓が語る家運の盛衰

特250

547



始



特250
547

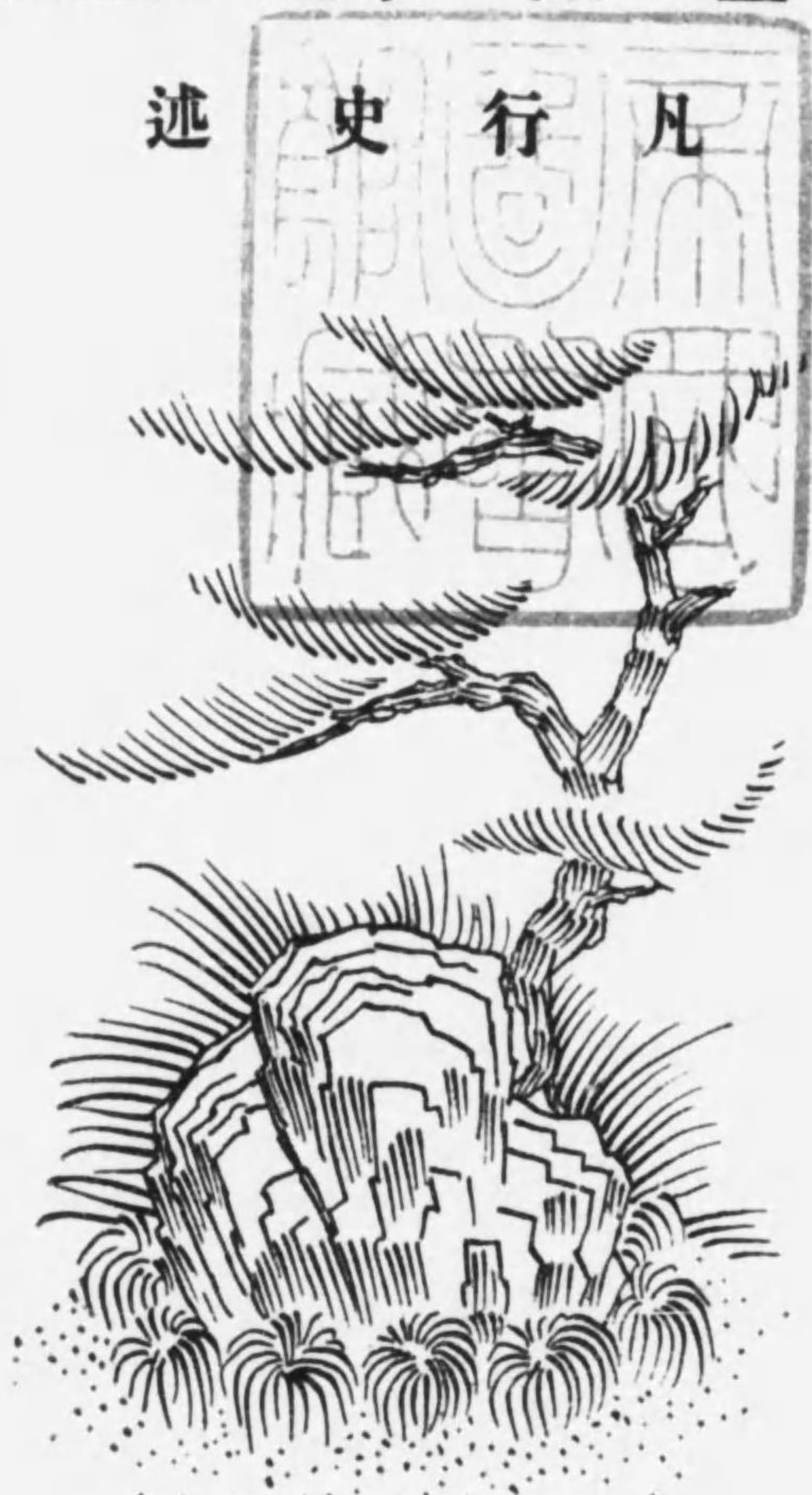
お墓の語る家運の盛衰

述

史

行

凡



院

書



堯

は し が き

本書は、著者が觀相學講習會の席上で口述した、一部を摘録したのであります、其の當時騰寫版刷にして、一部の篤信者にだけ、お頒ちしたのでありますが、近頃各方面の方から、頻りに活版印刷にせよとの要望がありますので、取り敢ず、活版に附したのであります。

本書は、著者が墓相を觀相學の一分科として述べたのでありますから、充分に云ひ盡してはありませんが、お墓の概要だけは述べたつもりであります。

本書を讀まれて、どう感じ如何に思はれるかは、その讀む方の心次第であります、忘れ勝ちの先祖の事や、怠り勝ちのお墓の事について、少しでも其の心持を呼び起して頂く事が出来ましたならばありがたく思ひます。

本書中にある門標については著者が創見でありますから、もつと多く述べたいのでありますが、餘りに吹聴がましくなりますので、こゝではほんの一言だけ申述しておきます。

今迄氣にも留められなかつた、門標にも哲理的に深い意味のあることを、幾分でも認識して

下さることができませんならば、誠に光榮きとくわんであります。

著者しるす

目次

墓の崇は人相にあらはれる………	二
墓は觀相術と一致してをる………	三
墓には先祖より一貫した精神が籠る………	四
墓は一家の基礎である………	四
先祖の供養は一家の安泰………	五
驕奢な墓は家運に行き詰りが来る………	六
今は立派な墓のみを残して………	七
墓が倒れたら間もなく破産した………	七
墓を直したら病人が絶えた………	八
墓を建立したら獨立が出来た………	九
墓は一家の守護となる處………	一〇

墓は大きくて立派でも供養にはならぬ……………
 墓を正しく建立するには……………
 人爵を極めた人でも祖先に倣へ……………
 墓はどんなのが良いか……………
 墓を荒して置くと不具者や發狂者が出る……………
 墓が樹木の蔭になると……………
 墓石の向きが悪いと崇禍が多い……………
 代々の墓が一行に凶方に向いてゐると……………
 墓の境界は明らかに……………
 墓が混同すると火に崇られる……………
 自然石の墓は一家斷絶無縁となる……………
 墓の異形は親類縁者にも崇る……………
 變つた型の墓は子孫が不幸となる……………
 混凝土で固めた墓は凶禍が多い……………

一〇
 一一
 一二
 一三
 一四
 一五
 一六
 一六
 一七
 一八
 一九
 二〇

墓地を混凝土で蔽ふ事は避けよ……………
 生前墓にを建てるのは一家を不運にする……………
 墓石に強く磨きをかけると孤立無縁になる……………
 墓石に俗名を刻むと家運が永續せぬ……………
 生前の偉人も死後は同じに……………
 戒名を刻む順序と祀り方……………
 石塔に刻む文字は楷書が正當……………
 戒名に不吉な文字があると相続人に崇る……………
 分家しても俺が先祖とは云へぬ……………
 分家は分家なりに弟は弟相應に……………
 先祖の祭祀を本家まかせにする分家……………
 養子が養家の先祖を粗末にすると……………
 墓に觸れると祟が來ると云ふは誤り……………
 墓を扱ふときには祭事を行へ……………

二一
 二二
 二三
 二四
 二五
 二六
 二七
 二七
 二八
 二九
 三〇
 三一
 三二
 三三
 三四
 三五

お墓が語る家運の盛衰

凡 行 史 述

國民精神の作興とともに、敬神崇祖の徳風が涵養せられ、一般人士の祖先に對する觀念が高められて、祖靈への祭祀供養が懇ろに營まるゝやうになりました事は、誠に喜ばしき現象であります。

私共が祖先を偲びまつりますとき、苔蒸す故郷の墳墓を想起いたしましたして、感懐の深きを覺えます。

如何に王公貴族、偉人哲士でありましても、この世に人として生れたる以上、時と處こそ違へ、最後に行くべき處は墓であります。

悠久の過去より、永劫の未來にいたるまで、變りなきは人と墓との關係であります。今この人と墓との連鎖につき、私が多年觀相を業とし、實地の經驗より會得致しました體験を基礎として、墓の善惡が人の運命上にどれだけの影響を及ぼすか、人と墓と運命との關係について述べることに致します。

墓の崇は人相にあらはれる

吾々觀相家が運命鑑定の清濁に應じ、相貌の判定を致しますとき、屢々實驗することでありますが、不測の災難に遭ひ、得體の知れぬ病に苦しみ、相續人が早逝し、幾代も寡婦が続き或は放蕩、白痴、不具の子が生まれ、その他種々なる不幸災禍の原因が、顔面額部の墳墓宮、父母宮と稱する位置にあらはれる、血色の表彰により、祖先の墳墓又は近祖の墓地墓石の障礙なることを、臆氣ながら知ることがあります、かゝる際直に墳墓の實地につき、調査研究を致して見ますと、果して墳墓の不整、荒廢、廣狹、大小、高底、美醜の如何が原因となつてゐる事が判明いたします。

墓は觀相術と一致してをる

墓地や墓石の善惡が顔面に現れ、其の人の運命状態に一致する、お墓と人の相と運命との三系脈の連鎖を、實地研究の材料と致し、多數の實證を綜合統計いたしましたして、觀相術に比較して見ますと、墓の組織形體が整ひ、觀相の原則に一致した、良き墓のある家は家運が榮え、子孫が連綿として續き、一家一門繁が榮してをります。墓が相法の原則に違背した、不良の墓相を爲してをりますとその家は家運が衰へ、子孫に不幸不運が續き、悲惨な運命に陥り、甚だしきは一家が斷絶し一門が悉く死滅してをります。墓地や墓石の状態を、觀相術の原則に照し、仔細に考察を下して見ますならば、家運の榮枯盛衰も、子孫の存亡窮達も、一家一門に起る不幸災禍も、其の依つて生ずる原因も明らかに知ることが出来ます。

墓には先祖より一貫した精神が籠る

凡そ人として生活するに、過過、現在、未來を通じて變りなきものは、親代々それ／＼に身を立て、業に安んじ、一家圓滿に家名を全ふし、永久變ることなき子孫により、先祖代々の墓を守り立て、行く事を欲し、自己の成功に努むるも、家運の繁榮を計るも、子孫の幸福を祈るも、先祖の始めより代々一貫した精神であります。この精神は吾々の生命とともに肉體に傳はり、遠き先祖より今日に至るまで繋がつて來てをります。吾々先祖の鎮まりまする、墓地には先祖代々の精神が籠り、そこ一建立されてあります墓石には、父祖の精靈が留まつてをります。吾々祖先より傳はり來りました、この肉體には過去より現在、未來へと繋がる運命のありますごとく、祖先傳來の墓地や墓石にも、祖先以來の家運が繋がつて來てをります。

墓は一家の基礎である

吾々の先祖はお墓に在し、お墓は吾々子孫の發したる源であり、吾々が一家を爲す家庭の根源であります。墓は人生の根となり、家庭の基礎となつてをります。家運に盛衰があり子孫

に隆頹のありますのは、父祖以來の墓の善惡吉凶に基づくものであります。墓が吉相であれば、其の家に吉祥を現し、墓が凶相であれば、其の家に不幸凶禍を招くのであります。墓の正しきは祖先も家系も子孫も正しく、墓の粗末なるは、家系も子孫も粗末なる事を物語る理であります。祖先の墳墓を正しくし、祖靈に對する回向や供養を營むことは、家運を肅へ、自己を修め子孫を全ふし、運命を向上し、一家の發展と幸福に寄與する所以であります。

先祖の供養は一家の安泰

吾々が今日あるのは申すまでもなく、先祖の恩徳によるのでありますから、祖靈に對しては常に至誠を盡して報恩の義務を果し、心からなる奉仕努力により、先祖の加護を頂き、家運の安泰と子孫の繁榮を計り、家名を全ふせねばなりません。然るに祖先奉仕の眞義を忘れ、果すべき義務を怠り、先祖の墳墓を粗末にし、剩さへ祖先を

凌ぐ不遜の墓を建立し、祖靈を恣にすれば、父祖の怒りに觸れ、墳墓の咎を蒙るは申すまでもありません。最も厭ふべき、横死、變死、自殺、逆縁の如きは多く墓靈の咎による、墳墓の崇禍より生ずるものであります。

これより逐次叙述致します墓相の状態が、讀者諸氏の一身上に参照し、自己の運命と合致するところがあり、墓地の不整と建墓の方法に誤りあるを發見せられましたならば、速に改墓を斷行し、吉相の墓に改め一身の安泰、家運の隆盛、子孫の繁榮に盡されたく存じます。

驕奢な墓は家運に行き詰りが来る

墓が倒るればその家が倒れ、墓が荒廢すればその家が荒廢し、墓を妄りに驕奢にすれば、その家が久しからずして亡びるのであります。世に時めく榮華を誇つた富豪が、祖先の恩恵を忘れ、豪莊なる墓を構築し、それが基となり家運に行き詰りを來し、次第々々に衰微して今は見る影もなき状態の人があります。

今は立派な墓のみを残して

實業界に活躍し、一時は海外にまで手を延ばし、巨萬の富を得た人が盛運に乗じ、莊麗な墓を建造した結果、家運が忽ちに急轉し、瞬く間に破産し今は立派な墓のみを残して、空しく日を送つてゐる人があります。

身分に不相應な墓を立て、一粒種の愛子を失つた人、幼なき子女を幾人も残して、妻に先き立たれた不幸な方、墓を建てるに禮を盡さず、石屋まかせに勝手な墓を構らへて急病に罹り、或は不慮の災害に遭ひ、變死頓死をした悲惨な人もあります。

混凝土で固めた、墓を造つた爲に、俄に狂ひ出し、取り留めもつかぬ事を喋り歩き、又は得體の知れぬ病にとりつかれ、永らく苦しんだ人や死くなつた人があります。

墓が倒れたら間もなく破産した

一夜暴風雨に襲はれ、墓地の地盤にゆるみが來て墓石が倒れた、家人は何か不吉の前兆では

あるまいかと、驚いてなほしたが、時すでに遅く、一寸の手違ひで賣り損ねた、生糸が大暴落をして、再び起つ能はざる大損害を蒙り、遂に破産をして仕舞つた人があります。

墓を直したら病人が絶えた

些細な事から親子の意見が衝突して、長男が永らく家出して行衛不明になつてゐたが、或る時さる觀相家に觀て貰つたら、墓が悪くて長男に祟ると教へられ、早速墓地を擴げて、新たに祖父母の墓を建立したら、其の翌日突然に長男が戻つて來た。

財産分配の事から、親子二代に涉つて本家と分家とで、互に訴訟を起して争つてゐたのが墓地の整理によつて忽ち圓滿和解した。

次ぎ次ぎと病人が續き、長男が大學を卒業すると間もなく病氣に罹り、永らく床についてゐる中、次女が急病で病院に入院すると間もなく死亡した。續いて長男も死去した、それからと云ふものは、一層に不運が續き、さまざま不幸や災難に遭つて、困りぬいてゐた家で、墓地を改修して供養塔を建立したら、それ限り病人も絶えて災難もなくなり、大きな損害を

蒙るところを無事に免れた實業家があります。

墓を建立したら獨立が出来た

早くより獨立しやうと何回も企てゝみたが、何時も故障が生じてどうしても獨立が出来なかつたのが、不圖した事から深い考へもなく、人に勧められて新墓地を買つた。恰度舊盆にあつてゐたので、幼少の時に別れた母親の墓を建立したら、其の墓を請負つた石屋の世話で良い場所の賣家が安く手に入つた。すると忽ちに獨立の機運が生じ、開業するや頓々拍子に事業が發展して幾何もなくし、數萬の富を造つた人があります。

墓と運命に關する、こうした實例を擧げれば際限なくありますが、墓と人事との連鎖は極めて微妙な關係にあります。人生、運命には限りなき交渉が繋がつてをりますから、本書を讀まれた方は、篤と自家の墳墓と佛壇を正視せられ、不備なる點を整へ、福徳圓滿、家運長久、子孫繁榮の道を開かるゝやうにお勧めいたします。

墓は一家の守護となる處

墓はもと一家に瑞氣禎祥を發し、家運を繁榮にし、子孫を繁昌ならしめ、一門の守護となる處であります。墓の建て方を誤り、供養を營む順序を怠れば、恐るべき凶禍の生ずる處と化するのであります。

父祖の墓を建立し、先祖の祭祀を行ふことは、自己の幸福を高め、一家の福祉を増進し、一門の繁榮擁護に至大な影響を齎すものでありますから、慎重に取り行ひ、決して輕々に看過してはなりません。世の中に不幸凶禍の絶えざる所以は、墓を建立するに確乎たる方針なく、墓の供養を營む順序に誤りが多き爲であります。

墓は大きくて立派でも供養にはならぬ

世人の多くは、大きな墓さへ建てれば佛に對する供養となり、立派にすればするだけ、供養の量が多いものと心得、金を多くかけて墓を建立すれば墓を建てた誠意が佛に通じ、佛も満

足して成佛するもの、如く考へ、華美莊麗な墓を建造して、得々たるの傾向がありますが、それは大きな誤りであります。

墓を建てるには一定の標準がありまして、家々によつて異つた形式があります。この標準形式に従つて建てねば、如何に立派な墓を建立しても供養にはなりません、法外に大きなものを建つれば、却つて崇禍を蒙り、不幸災禍を招くことになります。如何なる場合でも墓を建てるには、正しき建墓の方式に基いて建立せねばなりません。

墓を正しく建立するには

墓の正しい建立の仕方は、親の墓は子が建て、子の墓は孫が建て、代々親の墓は子が建立して行くのが墓を建てる順序であります。従つて子孫に異状なく家運も長久し、連綿として續く譯であります。

墓を建立する方式は、先祖の墓に追従して、幾何なり共小さくして建てるのが正當であります。それが各家々の墓を建てる標準となるのであります。若し先祖の墓より子孫の墓が大き

ければ大きいだけ、高ければ高きだけ、驕れば奢りたるだけ、それに比例した崇禍を蒙り、子孫が不運に陥るのであります。

人爵を極めた人でも祖先に倣へ

如何に人爵を極めた、大臣宰相でも墓は祖先に倣つて建立しなければなりません、先祖を凌ぐ立派な墓を建立すれば、それぐの崇禍を蒙り、遂には家運と子孫の永續が覺束なくなくなります。

先祖の墓が遠く故郷にあつて、新に現住地に墓を建立する場合でも、必ず故郷の墳墓に追従して建立すべきであります。

自分が單身奮闘努力によりて富を得た、盛運の人でありましても、妄りに祖先を凌駕する豪華な墓を建立すれば、家運に變化を來し、折角築き上げた地盤も忽ちに逆轉し、甚だしきは家屋敷までも失ふに至ることがあります。祖廟を凌ぎ犯す程度により、家運や子孫につきまゝな異變が生じ、種々なる不吉が現れ、行衛不明、急病、頓死の不祥事が續き、幾年も

いでずして家運に衰微を來し、遂には絶家廢家となるに到る事があります。

墓はどんなのがよいか

墓石は白色で硬質のものが適し、大きからず小さからず、高さは立つて兩眼より高きこと三寸乃至は五寸七寸までのところにて停め、妄りに驕らす、形は長方形にして、どつしりとした、落つきのあるのがよろしく、墓地は生氣に満ちた土壤にて、常に太陽の直射をうけ、雨露の恵に浴し易く、四方に障害なき地なれば、極めて吉相であります。家運も繁榮し、子孫も長久して、一門の發達する良き墓相であります。墓石の向きと墓地の入口は、東、東南、南、に限り、他は不可であります。

墓を荒してをくと不具者や發狂者が出る

墓は父祖の精靈が在す所でありますから、常に不淨を避けて、清淨にして置かねばなりません。

ん。墓地が荒れて生氣がなく、水涸れて雜草すら生ぜず、恰も焦土の如く、氣息奄々たるの
觀あるは、既に家運傾き没落に迫れるものであります。墓石や墓地が荒廢したる儘にして置
けば、白痴が生れ、不具者が現れ、發狂者を出すの惧れがあります。

墓が樹木の蔭になると

墓地の邊りにある、樹木が鬱蒼として繁茂し、墓石が大樹の蔭となり、天與の慈雨にも浴し
得ず、朝の陽光すらうけ得られぬやうに、蔽はれたる墓のある家は、家内が病弱となり、
子孫の縁がうすく、絶へず他よりの厄介を蒙り、人に知れざる苦勞の多き家となります。

墓石の向きが悪いと崇禎が多い

墓石の向きが悪いと、家運に動搖が多く盛衰が激しく、屢々金運に行き詰り、失費多くして
收支償はず、常に生活が不安定となり、家人に急病人が生じ、思ひもよらぬ怪我人を出すこ

とがあります、ことに一方に偏した手、又は足のみを重ねて病み、或は左右何れかに片寄り
て思ふのは、多く墓の向きの不吉より生ずる崇禎の現象であります。
墓石や入口が東北方の東門に向つてをりますと、自殺者や變死者を出す惧れがあります。
北向はさまぐらな凶禍を蒙り、絶えず苦勞や厄介をうけます。西方に向つてをれば、金の苦
勞が絶えず、結婚に纏れが生じ、女難や色難に悩まされます。西南方の裏東門向きは、主人
が早逝し婦人が主権者となり、幾代も後家が續きます。墓の入口がこの方向についてをりま
すのも凶相でありますから、それらの災禍を招くこととなります。

代々の墓が一行に凶方に向いてゐると

祖先以來の墓石が一行に凶方に向つてをりますと、親族との間に不和が生じ、本家分家の親
しい仲にて争ひを起し、親子兄弟骨肉の間柄で裁判沙汰に及ぶやうな事があります。
かやうな向きの悪い墓のある家では、早く良い方の向きに改めぬと、何時までも不和が續
きます。

鬼門、裏鬼門向きの墓のある家では、急いで改墓を断行して、吉相にかへて置かぬと、子孫幾代にも涉りて、恐るべき崇禍が続くことになります。

墓の境界は明らかに

墓地の区劃は明らかにし、他家の墓地と少しでも混同せぬやうにして置かねばなりません、いかに本家分家親類の間柄でありましても、厳格な境界を立て、正しく垣根をする事を怠つてはなりません。若し境界が亂れて墓石の區別がつかなくなるやうな事がありますと、相互に複雑な因果關係を生じ、精神的にも物質的にもうるさい問題が重なり、何時までも煩雜が続きます。かやうな混雜した墓を其の儘にして置きますと、崇禍が何代もつき纏ふて、本家も分家ともに衰微し、遂には親族までも滅亡の憂目をみるようになります。

墓が混同すると火に崇られる

本家分家又は他姓の墓石が交錯して、幾軒もが混同するやうなことがありますと、崇禍はいよ／＼つり、恐るべき火難に遭ふことがあります、如何に骨肉血縁より出た、兄弟姉妹の間柄でありましても、姓を別に名乗つたものゝ石碑を同一區劃の墓地内に、三基四基と交へて祀りますと、火の祟をうけ、甚だしきは焼死ネを出すか如き危険に遭ふ事があります。墓地に墓石が一ばいで、一基の建て場もなくありますと、長男や家督人が他所に行つて、一家を起し、生家を其の儘にして戻らなくなる事があります、墓地の整理をして餘地を作りますと、不思議に歸つて來ます、納骨室が遺骨で一ばいになりますと、長男や相續人が生家を去つて、他姓で住ふことが多くなります。

自然石の墓は一家断絶無縁となる

奇形や變形の墓は佛が卍道に陥ち成佛の防げとなり、その爲めに家内に崇禍が起ります。奇形や變形の墓は、破産者や變死者を出し、遂には絶家無縁となりますから、決して建立してはなりません。

自然石の墓は變死者を出し、血族を斷絶する最も忌むべき墓相となつてをります。自然石の墓を建立すれば、三代とまたすして破産を爲し、血族が斷絶して無縁となります。歌碑、句碑、記念碑に自然石を用ひる事は格別崇禍を蒙ることはありませんが、供養の爲めに建立する墓石には、自然石は絶対に用ひてはなりません。

墓の異形は親類縁者にも崇る

猫足や膳足、變形蓮臺等の異様な墓が自家の墓地になくとも、近親、縁者、同族者の墓地にありまして、その營むべき回向供養が行き届いてをりませぬと、不測の崇禍を蒙り、思ひもよらぬ災難に遭ふことがあります。常に回向の功德を積み、凶禍をうけぬやりにせねばなりません、若し近親の墓地に異形の墓がありましたならば、親族相寄り供養塔を建立するのが崇禍を艾除するにこの上もなき功德があります。よく俺は他から恨をうけたり、佛の崇りをうける様な事をした覚えがない、ましてや墓の障礙だなどと云ふ事は、どうしても信じられないと云ふ方がありますが、墓が粗末になつたり

荒廢したり、墓を建てる順序に誤りがありますと、靈魂が邪道に陥ちて成佛がしにくくなり、其の要求が崇禍となつて現はれるので、病氣や災難は崇禍の現象であります。平素崇祖の觀念に乏しい人や、佛心の感應に薄い親類縁者には憑依がし易いから、すがるのであります。崇禍は怨恨の有無にかゝらず、墓の建て方と供養の順序に誤りがありますと、さまざまなき災難となつて現はれますから、其の邊は篤と御理解置きを願ひます。異形や變形の墓のある限りは、不幸や災難が続きます、現在に別な變つた事もなく過されましても、いつ何時どんな崇禍となつて現はれるか、誠に恐るべき不安がありますから、斷然吉相の墓に改修なさるやうお勧めいたします。

變つた型の墓は子孫が不幸となる

生前の職業を後世に傳へる積りか、それとも故人の嗜好に添ふ意味か、恰も家業の廣告塔ともおぼしき、變つた形の墓を造る人がありますが、折角變つた墓を建立した、施主の苦心が

佛に通せず、却つて供養の本願に悖り、成佛往生の障げとなり、幽界の苦惱を子孫縁者に訴へる、その崇福を蒙つて、子孫や縁者が不幸に陥る事があります。墓を構築するには、絶對に奇形變形を避けて、正しき墓を建立せねばなりません。異形の墓を建てることは、子孫断絶、絶家無縁となる基であります。

混凝土で固めた墓は凶禍が多い

墓碑を混凝土で造り、墓石の周圍を混凝土で堅め、その下に納骨室の作つてある、お墓をよく見かけますが、凶禍を招くこの上もない悪い墓相であります。混凝土で固めた石塔を造り混凝土で墓地一面を塗りつぶした墓のある家は、不思議に家運が衰微に傾むいてゐるのが多い、然らざれば實子相續人がないか、あつても病弱で元氣がないか、婚養子であります。或は家人に胃腸を永く患ふものが出来るか、神経衰弱にかゝるものがあります。又子孫が結核を患ひ、成年に達するころになると、次ぎ次ぎと斃れて、他より健康な養子を迎へても、漸次病弱となるか、不良の子となつて、相續の責任を果さず、一生養父母を苦しめるかであ

ります。

混凝土で墓を造つてから、いろ／＼と不幸や災難に遭つた家の墓に行つて調べて見ますと、これ又不思議に申合せた様に、墓石や墓の入口が凶方に向かつてをります。混凝土の墓が何故に、こんなに凄い因縁を生じ、恐るべき崇禍が現はれるか、根本原因については、尙研究の餘地がありますが、餘りにも夥しい、凶禍の實例がありますから、混凝土を使用して墓を建立することは避けて頂きたいと思ひます。

墓地を混凝土で蔽ふ事は避けよ

墓を建立する際に混凝土を用ひて堅めることは、避ける方がよろしいと思ひます。先きに墓地は生氣のある、土壤が良相であると述べて置きましたが、墓は常に陽光をうけ、雨露の天水が地下に滲透し、自然の恵によつて、遺骨が土に化してゆくのが、極樂淨土へ更生する順路であります。子孫たるものは、墓參の度毎に雜草を取り、墓地を綺麗に掃除して、墓石の垢や埃を洗ひ落とし、清淨に清めて、香華を捧げ、在すが如くに奉仕して、祖靈を慰めるのが

道であります。
凝凝土で蔽ひ盡せば、草を取る世話もなく、風が吹けば埃も取れ、雨が降れば掃除も出来てお墓詣りをするに世話がいらずといふ、考へから造るのでありませうが、甚だ考ふべき事でもあります、この家はこの墓を限りに、絶家無縁となつて子孫の世話をうけず、霜雪風雨の厄介にのみなる積りなれば、兎もあれ後世に至るまで、家運の隆盛と子孫の繁榮を思ふならば、断然凝凝土の墓を避け、既に建てられたお家では直ちに改墓を断行して、良き墓相に改め、家運の發展と子孫の繁榮に努めて頂きたい、然らざれば不幸凶禍は次ぎ次ぎと身に迫り、遠からずして血族が断絶して無縁となります。

生前に墓を建てるのは一家を不運にする

生前に自ら墓を建立して、戒名を朱刻にする人がありますが、建墓の方式を誤りたる、逆修でありますから、絶対に避くべきことであります。自ら墓を建てるのは供養の意義を爲さず、単なる墓標として残すのみで、建墓の根本精神に添ふてをりません。又安心して寂滅界に入り、極樂浄土に更生する道を、自分から勝手に攪亂し、顯界と幽界とを混同した行爲でありますから、子孫を無力にし、相續人を不良病弱に至らしめます、養子相續の家でありますと、養父歿後に家庭異變が生じ、相續人との間に紛糾が起り、財産を分配することになるか、養子が離縁となるか、いろ／＼と煩雜が重なり、遂には一家離散の悲しむべき結果に立ち至ることがあります。

墓石に強く磨きをかけると孤立無縁となる

墓石に磨きをかけ、強く光澤をつける事は、墓の觀相上良相とはいへません、恰も鏡の如くに研ぎ、参拜者の姿が映するが如きは避けねばなりません、折角参拜者が捧げる供養の水も受けいれず、恵の雨露も跳ね返し、吾れ獨關せず焉と孤立を暗示し、無縁を物語るもの、如く、現在はいかに盛運でありましても、次第に血縁と遠ざかり、孤立無縁となり、漸次家運も衰頽して、淋しい境涯となる怖れがあります。
墓石の色澤に青味が加はれば加はるだけ、病者相次ぎ、藥餌の絶えざる病家となります。

色澤の黒き墓石は、家内に不純を胎み、不倫を生じ、紛糾や訴訟事件があらはれ、内に秘密を蔵するの家となります。

墓石に俗名を刻むと家運が永續せぬ

戒名の刻み方如何により、成佛の遲速に影響がありますから、戒名は必ず墓石の正面に刻み俗名は側面に記するのが正當であります。俗名を正面にし、戒名を側面又は裏面に記することは、墓相構成の法則に違反した、凶相でありますから避けねばなりません。高位高官の方や、軍人、政治家の墓などに、よく俗名を正面に大書した、立派なお墓を見かけますが、いかに侍人臣を極めた大人物のお墓でも、國葬の禮をもつて遇せられた偉人のお墓でありましても墓相の原則に違背した墓を建立して俗名を表面に記すれば、家運や子孫の血縁に限定をうけ、血族との縁が次第に薄らぎ、盛運は其の人一代限りとなりて二代と續かず、三代と俟たずして實子相續人がなくなるか、あつても病弱か不肖かで家名を繼ぐ能はざるものとなります。然らざれば破産か没落か何れにしても永續の見込なきものとなります。

生前の偉人も死後は同じに

生前は如何に偉人でありましても、正面に俗名を刻むことは、顯界と幽界とを混同した矛盾でありますから、供養の本願に添はず、既に幽冥界に入り戒名をうけたるものは、顯界そのまゝの俗名では極樂に往生し、淨土に更生することが出来ませぬから、止むなく子孫に訴へ、成佛の回向を要求する、其れが崇禍となつて現はれますから、いかに名門の家柄でありましても、建墓の標準を誤り、俗名を正面に記すれば、不良の子孫が生れ、不祥なる事件が起ります、往々名人大家の後が無慘にも没落する事がありますのは、建墓の方式を無視し、勝手に豪華な墓を建立し、表面に俗名を刻する爲に、その崇禍に災ひされて没落するのであります。

斯様な墓の建て、あるお家では早く、良き墓相に改めて置きませぬと、取り返しつかぬ凶禍を蒙り、幾代も経ざるうちに、破産か没落かの非運に遭遇する事があります。墓を新しくを建立なさる際には、必ず戒名を正面に刻み、俗名は側面になさなければいけません。

戒名を刻む順序と祀り方

石塔に刻記する霊位は、一基に一靈又は夫婦の二靈を併記合祀することを、正しき順序方式と致します。夫妻の二靈位を合祀いたしますには、向つて右を上座とし左を下座となし、右を夫位にし左を妻位にとるのが至當であります。若し誤つて婦靈を右に刻みますと、その家には婦人の主権者が現れ、獨身の婦人や寡婦が續くこととなります。一基に二靈以上を合祀する事は建墓の方式と供養の順序に障礙を生ずる基となります。一基に三靈を合祀しますと、中央の靈位が左右の靈位におされて、成佛の防げをうけます。その苦惱を子孫血縁に訴へますから、家内に不測の異變が生じ、思はざる災禍を蒙ることがあります。一基に數靈を併記合祀致しますと、さまざまの凶禍を蒙り、放蕩者が現れて家産を蕩盡し、血族も次第に滅じ遂には血縁が絶えて仕舞ふやうなこととなります。

十五歳以上の未婚婦人には、觀世音菩薩のお影を刻みて墓碑にかへ、童男童女の冥福を祈るには、地藏尊を建立いたしますのが、追善菩提のよき回向となります。

未婚の兄弟姉妹の靈位は、一基の墓に數靈を併記連刻いたしましたとしても、崇禍をうける恐れはありません。記念碑に俗名を表記し、多くの戒名を連刻いたしましたとしても障礙を蒙ることはありません。

石塔に刻む文字は楷書が正當

石塔に刻む文字は總て楷書にて書くを正式と致します。隸書を用ひましても差したる障礙を蒙ることはありませんが、行書又は草書を用ひることは、不吉を招く基となりますから、避けねばなりません。ことに正面に記する戒名の文字は字劃を正しく誤りのなきやうにして、肉附の豊かな楷書を深彫にいたしますのが、莫相構成の方式に添ふ良き墓であります。回向や供養を本願とせざる、石碑には行書草書を用ひましても差しつかへありません。

戒名に不吉な文字があると相續人に祟る

戒名に不吉な文字が附けてありますと、成佛の防げをなし、子孫に崇禍を生ずることがあります、戒名を贈るには、其の人生の閑歴や人格を中心に、慎重考査の上命名せねば冥福にはなりません、心なき命名は子孫に崇禍を残す惧れが多分にあります。戒名に不吉な文字が附けてありますと、相續人についての苦勞や煩雜が多く、家督の問題で悩んでゐる家庭には、不吉な文字のついた位牌が大概あります、戒名に不吉な文字が一字ついたのでありますと、男子系の子孫が乏しく女子が多く生れます、二字つけてあれば男子が育たぬか婿養子となります、三字も用ひてあれば世嗣が早逝して相續人が定まらず、次第と血縁に遠ざかることになります。それ以上もありませんと血統が絶えて仕舞ふ事があります。何代も續いて男子の育たぬ家には、必ず男靈の戒名に不吉な文字が幾字か使つてあります、萬金にも替へられない、一粒種を不慮の災難で失はれた、家庭に行き一靈位の戒名中に二字も不吉な文字が使用されてあるのを見出して標然とした事があります。突然主人が失踪し長男が行衛不明となり、獨娘が家を飛出す、妻君が相續人を連れて居なくなる、姉妹が相次いで家出をした。いろ／＼と家出の理由を調べて見ても見當がつかず、漫然と家出をしたといふ家には、不吉

な文字の附いた靈牌が、何基もあることをよく発見します。戒名のお話を致しますと、戒名の文字位で家運に影響があるものかと輕視なさる方がありますが、戒名の不吉からさまざま凶禍を蒙つた、實例が澤山にありますから、決して輕々に看過してはなりません。つまりらぬ名譽心から、その人の經歷や人格に添はない院殿、大居士の尊稱を金で購つて附けて貰ふ人がありますが、故人の爲には何等回向にも供養にもなりません。却つて成佛の防げとなつて、浮ばれぬことになります、かやうな戒名をつけた、石塔や靈牌のあるお家では、追善の供養、十分に營み、回向に精進をなさらぬと、思はざる崇禍をうけて子孫が次第に衰微してゆきます。

分家しても俺が先祖とはいへぬ

分家した方や獨立した人によく聞く事ではありますが、先祖の祭祀りは本家の長男が全部營んでをるから、分家した次男の俺には先祖を祀る責任がない。又俺は獨立して別に一家を起したのであるから、俺の家には祀る佛がない、俺が先祖になるのだから、俺の死なぬ間は墓も

佛壇も必要がないと、墓地も佛壇も持たずに、平気で居る人があります。又それが當然であるかのやうに多くの方も思ふてゐるゝやうであります。次男だから先祖を祀る責任がないの、自分が獨立して財産を構へたからとて、自分を自分から先祖といふ譯にはゆせきません、何誰でも今日あるのは、両親、祖父母があつて、始めて今日あるのでありますから祖先を崇拜し、先祖を尊ぶといふことは、長男、次男の別なく、何人も當然に行はねばならぬ義務であります。分家した人、獨立した人にかゝはらず、両親と祖父母とを先祖として、崇め祀り、追孝の至誠を盡くして回向を營み、報恩の義務を果さねばなりません。

分家は分家なりに弟は弟相應に

新家、分家にかゝはらず、祖先を祀ることは當然のことでありませんが、分家は本家に追従し新家は生家に従つて、分家は分家なりに、弟は弟相應の墓を建立して祀るべきが正當であります。新家や分家は本家と異り、墓地に卒塔婆を奉建するだけでも、祖靈に對する禮は盡くされますが、遠祖、近祖の追善提善の爲に、供養塔を建立して、祖先への供養を行へば、

この上もなき回向供養となります。

如何に本家に於て、到れり盡くせりの、供養が行き届いてをりましても、新家や分家で祖靈に對する供養を行くば、本家に優る功德を積むことが出来ます。

分家や新家が比較的永續性をせぬ傾向がありますが、その重なる理由は、分家した人や、新家を起てた人が、祖先の恩徳を忘れ、祖靈を無視し、俺が先祖になるのだの、次男だから先祖を祀る責任がないのと、父祖の供養を怠るがために、その崇禍をうけて、家運や子孫の縁を絶たれ、自然と永續が出来なくなるのであります。

先祖の祭祀を本家まかせにする分家

分家で先祖の祭祀供養を本家まかせにして、祖靈の供養を怠りますと、不思議にその家には、神経系統の病に罹る家人が出来て、神経衰弱となるか、憂鬱性の病を永く患ふか、首から上の病にかゝり、眼、耳、口、鼻、ことに蓄膿症などにかゝつて容易に全治しない。或は相續人が早逝するか、弱いか、放蕩するか、婿取りか、兩養子となることがあります。兩貫

ひのときの養子は、男を先きにするか、女を先きに貰ふか、本家の墓相によつて定めぬと、中途で養子の離縁問題が起つて、勝家しなくてはならなくなる様なことが起ります。

養家の先祖を粗末にする

養子が養家の先祖を粗末にして、供養を怠り、祭祀を疎かに致しますと、家内に紛争が生じ病人が續出し、さまざまの凶禍を蒙り、血縁が絶え、次第に家運が衰へ、遂には一家が滅亡するに至ります。

本家が先祖の供養を怠りますと、何時の間にか、本家の勢力が分家に移つて、本家は次第に衰へ、遂には没落することになります。本家分家にかゝはらず、祖先に對する祭祀供養を行へば追善の功德が累積して一身一家の徳となり、家永續、子孫長久の果を結ぶのであります。されば何誰に限らず祖靈に對する、回向供養を怠つてはなりません。

墓に觸れると祟りが來ると云ふは誤り

墓に觸れると病災を蒙り、死亡の祟をうけると、世間の云ひならはしになつてをりますが、墓を扱ふに、正しき順序を立て、行へば、子孫を繁榮にし、一家の安泰にこそすれ、凶禍を蒙るなどといふ、理由は少しもありません。爲すべき方法を行はず、妄りに墓を新設し、或は他人の墓地を削つて買ひ取り、無縁の墓石を他に移して、勝手に自分の墓地を構へたり施すべき順序を盡くさずに、墓地の改修などを致しますと、崇禍を蒙ることが往々にありますが、施行すべき方法を誤らざる限り、決して崇禍を蒙るべきものではありません。

墓を扱ふときには祭事を行へ

墓を新規に建立するには、墓地を淨化すべく、それ／＼の祭事を行ひ、墓地の整理改修には祖靈に對する祭事を執り施工するのが、正しき順序方式であります。猥りに墓地や墓石を犯しますと、家内に怪我人や、急病人や、病弱者が出來まして、次ぎ次ぎと災害を蒙ることがあります。

恐るべきは無縁墓地の崇禍であります。何代も續いて、白痴、不具、不良の子が生れます、

のは、多く無縁墓地を犯した凶禍の現象であります。

墓に塀を高くするは子孫に罪科を残す

墓を構築するにあたり、墓地を引置にし、外廓に美観を添へるために、土を盛り石を積み、鐵柵を構らへ、或は塀を廻らし、堅く扉に錠を卸すなど、嚴重にしてあるのがありますが、墓相上不吉な墓であります、高き頭丈な塀や、鐵柵を構作することは、子孫に罪科を残す、忌むべき墓となります。高過ぎる石燈籠なども不吉を招く表兆となりますから、避けねばなりません。

墓地に植ゑてならぬ木

墓の周圍にはトゲを生じ實を結び、大木となり易き木を植てはなりません。樹木が繁茂すればするに従つて、其の反比例に家運が衰へ、トゲを多く生じ、實を多数結ぶにつれて、病弱

者、廢疾者、不具者の子が生れることとなります。

石燈籠と供養塔を建てるには

墓を建立して供養の爲に捧げる石燈籠は、墓石よりも底く、灯を點する用意がなくては、正しき供養の燈籠とはなりません。供養の石燈籠には梵字を刻み、諸佛來迎の意を表せば、最も良き供養燈籠となります。石卒塔婆、層塔、寶塔、五輪塔などの供養塔を建立いたしますには、必ず墓石よりも高さもを建立せねば、建墓の方式に添はず、徹底した供養塔の意義を爲しません。

墓を建立するに重要な埋經供養

墓を建立する上に重要なことは、埋經供養と一字一石三拜經の埋納であります。埋經と申しますのは經文を淨寫して、祭物表装に仕立、筒に納めて御佛に奉げ、一字一石三拜經とは

小石一個に一字づゝ經文を書き、一石に三拜を奉げるのであります。一字一石の經文をお經の字數だけの石と、寫經とを共に、層塔、五輪塔の臺裡に埋納するのが、建墓の要諦であります。これに依つて全き墓の生命を發揮し、眞に徹底した、建墓の精神に添ひ、正しき墓相が構成されるのであります。

寫經の奉獻を怠れば供養にならず

五輪塔、層塔、石卒塔婆、石塔の外觀が如何に立派に整ふてをりましても、寫經の埋納を怠れば、折角供養の爲に建立した墓が供養にならず、佛を作つて魂の入らざる大失態となり、追善菩提の本願に添はざることになりまますから、建墓の際には必ず淨書經文の奉獻を怠らぬ様にして慎重に執行行はねはなりません。

寫經と一字一石三拜經の功德

先祖代々の慰靈供養の爲に、供養塔を奉獻し、父祖の石塔を建立する際、墓地墓石裡に寫經を奉納し、一字一石經を奉げる事は、極めて崇高なる成佛供養でありまして、徹底した回向となりますから、靈魂が菩提に入り、成佛道へ達するに、限りなき功德となり、家運隆昌、子孫繁榮の現世利益に顯著なる惠福を齎すものであります。

墓と佛壇は一家になくてはならぬもの

墓がありましても佛壇のない家や、佛壇があつても未だ墓を持たぬ人があります。墓も佛壇も一軒の家には、必ずなくてはならぬ大切なものであります。佛壇の安置してない様な家の家人は、吾儘で勝手に強く、常に家族の間に風波が立ち、夫婦間の圓滿を欠き、親子の間にも屢々衝突が起り、相續人が病弱か我儘か放蕩かであります。雇人をおいても永續させず、女中を置いて居つかず、家人の氣分が荒々しく不親切で、家の中に落ちつきがなく生活が不安定で、一家の秩序統制が亂れがちであります。

佛壇の整ふた家は家内が圓滿

他家を訪ずれて、何んもなく温いなごやかな感じがして、居心地のよい家があります。かやうな家には、必ず佛壇が整ふて。靈牌がきちんと整頓し、香華も行きとどいてをります。家人に落ちつきがあり、人の出入も多く、家内が圓滿で和合し、子供も元気で、商賣も繁昌し人に對して親切であります。

他家の位牌や佛壇を預るな

他家の位牌や佛壇を預かつてゐる家がありますが、靈牌は供養の對象でありますから、靈魂が憑依してをります、もしも預つた位牌の供養を怠り、粗末にしたり致しますと、一家に祟禍を起し、家内に思はざる不祥事を見る事があります。他家の位牌と自家の位牌とを、同じ佛壇の中に祀りますと、家人が病氣に罹るか、家内に争ひ事が起るか、放蕩をするものが出

来て、次ぎ次ぎといろ／＼な不吉や災難が續きます、遂には自分の家の佛壇や位牌を、他家に預けて立ち退かねればならぬやうな破滅に陥ることがあります。

佛壇はお墓の延長

私どもは朝起きるや、威儀を正して、祖先の墓前に仕伺し、香華を手向けて冥福を祈り、今日一日の行動を誓ひ、夕に業を終へるや、先祖の墓前に額づき、阿伽水を奉げて無事安泰を感謝し、過ぎし今日一日の出来事を報告し、在すが如くに奉仕して、祖靈を慰めるのが子孫の道であります。朝夕に行ふ墓前の奉仕が、風雨寒暑の防げをうけ、怠り勝ちになる事を慮り、屋内にて朝夕の行事が行はれるやうに、お墓を延長して佛壇をしつらへ、先祖代々の位牌を奉祀したのでありますから、佛壇には朝夕の禮拜を怠らぬやうにし、命日には墓參を欠かさぬやうにするのが子孫の義務であります。

墓は根家は幹佛壇は花

墓は家庭の基礎であり、子孫の根源であると、先に申上げて置きましたが、私共は墓を根とし、家を幹にし、佛壇を花に做すべきものであらうと思ひます。吾々人生に良き花を咲かせ家運を全ふし、子孫の實を結ばねばなりません。花のないやうな家には、良き家運の望まれやう筈もなく、良き實の結ばう道理もありません。吾々は花運を全ふし、良き實を結ばするに、墓の根を正しくし、家の幹を齎へ、佛壇に心の花を奉げ、先祖代々の諸靈に對し、追善奉仕の至誠を盡くし、報恩の義務を果して回向供養を行へば追善の功德により、家運繁榮、子孫長久の良き實を結ぶに至るのであります。

變死者や自殺者の墓には寶塔を

横死、變死、自殺、逆縁にあつたお家では、その不幸不運を嘆かず、徒らに他を恨らまず、

寧ろ吾家に正しき建墓の動機と、祖先供養の機會を、祖靈のお示しによつて、與へられたるものと感謝し、いともろに懇ろに故人の冥福を祈り、祖先の追善を行ひ、子孫の將來と家門敏榮の爲めに、薄幸無縁となつた諸靈の供養を營み、萬靈の追福の寶塔を建立すれば、限りなき善根功德となり、如何なる罪障崇禍をも消滅し、不幸災火より免れ得ることが出來ます。

墓や佛壇を大切にすると福德圓滿相となる

祖先の墳墓を大切にする人か、先祖の祭祀供養を怠つてゐる人か、顔面の神光佛光の現はれによつて、容易に觀取することが出來ます。崇祖の觀念に乏しく、墳墓の荒廢をも省りみず墓參を行つた事のない様な人は、顔に何となく凄みがあり、言ひ知れぬ寂寞な感じを人に與へ、氣分が荒々しく、落さつきがなく、傲慢不遜の風があり、我意強く、野卑、下劣、無慈悲、一見信じ難からしむるものがあります。

祖靈に對する回向供養を怠らず、崇祖の心掛けのある方の容貌は、寛容圓滿で、溫情の溢れ

るが如き風格があります。人に接して氣品とゆとりがあり、眼心には常に明朗な氣分が漂ひ人をして信頼し易からしめるものがあります。

父祖の追善供養を行ふと云ふことは、崇祖の觀念の發露でありまして、その思想行爲が人相の神光と佛光とになつて現はれるのであります。吾々は心があつて相があり、相があつて心の働きを現はすのでありますから、父祖の恩恵に對し、身をもつて奉仕に努め、回向供養を實行すれば、追善の功德が累積し、容貌が溫和となり、福徳圓滿相となつて、家運が榮え子孫が隆盛となります。

先祖の墓を崇め、父祖の位牌を尊ぶことは、人として當然のことで、何人も行はなければならぬ事柄でありますが行ふ人と行はざる人がありますのは、其の方の先天の徳不徳によるものでありまして、好運となり不運となるのも、信ずると信せざると、實行すると實行せざるとによつて、岐るものでありますから、祖先に對する報恩の義務を心に感ずるとともに、身をもつて回向供養を實行すれば、心の通りの人相が現はれ、行ひ通りの運命が現はれて、次第に幸福が高まり、自然に開運し發展するに至るのであります。

門標で性格や運命が判る

標札は單なる無機的構作物に過ぎませんが、姓名を冠して掲げるや、門標と云ふ使名が生じその人の代表と云ふ、運命的交渉が成立して、自然とその人の運命を暗示し、無言の中に吉凶を物語る事になります。

門標の構装は千種萬態で、各位の面貌の異なるが如く、それ／＼趣きを異にして居ります。大もあれば小もあり、厚きもあれば薄きもあり、美もあれば醜もあり、敬すべきもあれば、賤しむべきもあり、貧弱なるものもあれば、堂々たるものもあります。代理石で構作したものもあれば、青銅で鑄造したものもあります。陶製もあれば、木製もありまして、其の種々相は各自の個性を表現し、性格や運命を物語つて居ります。

節竹や朽木に其の名を刻するは、風雅の趣きはあれども奇人か變人かを免れず、家は粗末なれども文字の麗はしき門標が掲げてあれば、住む人の人格が偲ばれて、道行く人も足を留め自ら尊敬の念を拂はしむるものがあります。家は傾けども嚴たる門標は、由ある人の住ひと

思はしめ、名刺や紙片を門標に代へて張りつける人の、心事は動搖に常なく、永住の望も尠なく、世人の輕視をかひ、運命の薄きこと紙の如きなるを暗示して居ります。門標は自己存在の對象とし、自己が現實の標識として。公然掲ぐべきが正當であります。門標を掲げざる人は、自己の存在を否定し、已を無視するものゝ如く、未だ堂々たるものがあります。

好運を招く門標と不吉を呼ぶ門標

自己の姓名を托して凶を避け、吉に赴かしむるよき門標は、色も香もゆかしき楡にて、柾目正しく、大きからず小さからず、長からず短かからず、廣からず狭かからず、厚からず薄からず、調和のとれたるもの限り、他は悉く不吉を招く忌むべきものであります。門標の厚味には、其の人の金運、財力、福分、家運、家庭の内容關係を現はし、幅員には住所、職業、地位、金品の融通、集散、事業の計營、將來の運命等を現はし、長には壽命の長短、子孫の有無、身體の健不健を現はしてをります。

文字の楷、行、草、大小、肥瘦の構成と黒色の如何が、その人の思想的動向を現はしてをります。文字の揮毫方式は、各自の體質に則り、瘦軀の人には太字の行書にて記し、肥滿の人には細き楷書にて書き、思想性格の嚴肅な融通性の乏しき人には、行草體を加味して書かねばなりません。

門標を掲げる位置の高底左右の如何が、交際と人事往來の關係を現はします。門標を取り付けるに、金釘を用ふることは、金剋木の凶禍を蒙り、家内の和合を缺く怖れがありますから、木釘をもつて取り付けるを正式と致します。門標は構成の仕方と、文字の書き方と掲げ方の如何により好運を招く表兆ともなり、不吉を呼ぶ表兆ともなりますから、自己の前途に吉運を多く招來するやう、門標を改め、好運を迎へる用意に備へ、正しき門標を掲げらるゝやう、お勤め申します。墓や佛壇や門標について尙多く述べたい事がありますが、一先づ稿を結ぶことに致します。

本書を讀まれた篤信の方にお約束

墓を建て、から不幸病死災難に遭つて、不運が續いた、佛壇を求めたら間もなく死者を出した、他家の佛壇や位牌を預つてから、病人や争ひが出来た、門標を取り換へてから、家内に變つた事があつたと、實際に體驗せられ、現實の不運から、一日も早くのがれ、將來の安心に備へやうとの、思召のある方に對し、墓の善惡鑑定、墓の建て方、悪いお墓を改める方法、預かつた位牌や佛壇を解消する順序、正しい門標の構成と揮毫について詳しく御相談に應じ、直接と通信とにかゝはらず、即時御回答することを御約束致します。

尙この小冊子を読まれ、思ひあたるところのありました方は、是非とも近親、縁者、友人の方々に本書の御精讀をお勧め下さい。本書により一人でも多く救はれる方がありましたならば、誠に幸ひであります。そうして救はれた方ばかりでなく、救はれる道を教へた方に、その功德の擴大無邊なるものがあります。

正しき人生の羅針盤高級なる運命鑑定

だまつてお出になりましても、お顔さへ拜見すれば、どんな事でも、きつとおあていたしま

す。病氣や、適業や、縁談や、一生の運勢は申すまでもなく、御夫婦の事から、御両親、御子様、御兄弟姉妹の事まで判ります現在の自分はどうか、將來はどうなるか、行かぬ上岐路に迷ふ方、今後は如何にしたら、不幸や災難からのがれて、幸福に暮せるか、行く末の知りたい方は、直にお越し下さい、必ず御得心のゆく御判断を申し上げます。若し判断に誤りがございましたら、ドシドシお歸り下さい、決して料金は頂きません。家庭問題、結婚問題、親兄弟にもうちあけられぬ秘密、夫婦間の事柄、夫の品行問題について悩みある方の運命につき、觀相術の及ぶ限り、至誠を盡くして判定致します。御身分上の事は何誰様にかかはらず、絶対に秘密をお守りいたしますから、御心配なくお越し下さい。御相を中心にか、位、家相、墓相、門標、命名、改名、相場の豫言もいたします、遠近にかゝはらずお宅の方へ伺つての鑑定もいたします、通信の鑑定はお寫真と生年月日をお送り下さい、朝八時より夜九時迄、料金は一圓と二圓であります。

墳墓の鑑定と建墓の相談

横濱市中區羽衣町辨天社内

高級なる運命鑑定

凡行出張鑑定所

正しき門標の構成と揮毫

辨天社本殿のスケ左横

昭和十一年十一月一日印刷
昭和十一年十一月五日發行

又次正編

我が語る家運の盛衰
定價二十錢

作者所有

著者 凡 行 史

發行者 近 藤 元 女

印刷者 松 岡 寅 之 丞

印刷所 三 光 社 印 刷 工 場

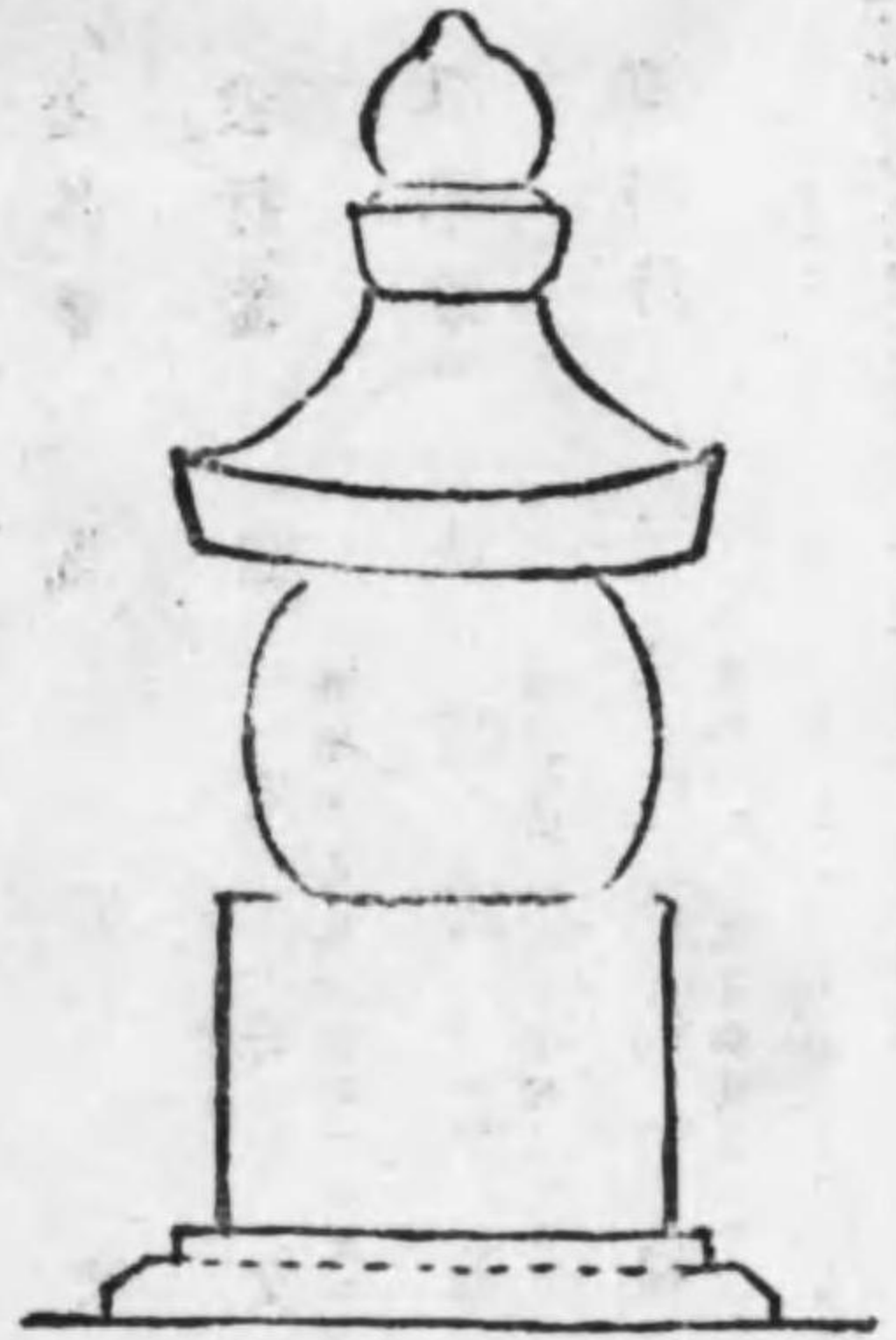
横濱市神奈川區鶴屋町二丁目三十七番地

堯 風 書 院

339
1331

墓相の原則と建墓の方式に基づき價格を低廉にし、清淨と迅速と誠實を旨とし御供養の本願にそひ奉るやうに建墓工事の監督を致し、必ず御期待以上に建立致します、何卒工事の多少に拘はらず御用命の程をお願ひ致します

墓の新設、改造
移 轉、五輪塔
層 塔、寶 塔
石塔婆、 其他
一切の工事請負



横濱市神奈川區鶴屋町
二丁目十六番地電車通

カ 石鶴 加藤鶴松

終